

教職課程履修学生のソーシャルスキルと適応感との関連

曾山 和彦
(名城大学)

問題と目的

18歳人口が減少を続ける現代は、「大学全入時代」である。そのような状況では、一定の学力・意欲水準を満たす者の他に、多様な学習履歴を持つ学生が入学するケースも予想され、大学生活に不適応を起こす学生の増加が懸念される。青年期段階における学校不適応の研究として、ソーシャルスキルの視点から考察を行ったものが多くある(相川, 1999; 久木山, 2005)。最近では、学校における不適応問題は、教師バーンアウトとして拮がる傾向にある。先行研究(田村・石隈, 2001)の知見からは、教師が学校という職場環境に適応し、その職責を果たすためには、他の職場以上にソーシャルスキルの必要性が示唆されると考えられる。以上より、本研究では、将来、教師を目指す教職課程履修学生のソーシャルスキルおよび適応感に着目し、大学における介入の視点を得ることを目的とした。

方法

【調査対象】A大学教職課程履修学生 527名(男子 380名, 女子 147名)。有効サンプル数は、学生 461名(男子 331名, 女子 130名)。内訳は1年生 193名(男子 123名, 女子 70名)、2年生 100名(男子 78名, 女子 22名)、3年生 122名(男子 97名, 女子 25名)、4年生 46名(男子 33名, 女子 13名)であった。

【調査時期】2007年7月

【手続き】講義時間を活用し、質問紙を配布・回収した。なお、個人の特定ができないよう、無記名とした。

【測定具】① KiSS-18(菊池, 2007) ②青年用適応感尺度(大久保, 2005)

結果と考察

【ソーシャルスキルおよび適応感の学年差と性差】個々のソーシャルスキルと適応感下位尺度得点に学年差と性差があるのかを明らかにするため、学年×性別の2要因分散分析を行った(Table1)。「ソーシャルスキル」、「課題・目的の存在」、「被信頼・受容感」におい

て学年の有意な主効果が認められた。多重比較の結果、「ソーシャルスキル」と「被信頼・受容感」は、4年生が他学年に比べて有意に得点が高いことが明らかになった。「課題・目的の存在」は、1、4年生が2、3年生に比べて有意に得点が高いことが明らかになった。また、「居心地の良さの感覚」において女子の得点の方が男子よりも有意に高いことが明らかになった。

【ソーシャルスキルと適応感との関連】ソーシャルスキルと大学生活に対する適応感下位尺度との関係性を明らかにするために相関係数を算出した結果、適応感尺度を構成する4下位尺度すべてにソーシャルスキルとの相関があることが明らかになった。

【教職課程履修学生に対する不適応予防の視点】学生の不適応予防の視点として、次の2点が整理された。①学生参加型授業導入;河内(2005)は、大学生が求める授業改善の一つとして、「討論・プレゼンを含めた学生参加型授業」があることを指摘した。本研究結果から、ソーシャルスキルの高い学生は、「大学生活になじんでいる感覚や課題や目的に伴う充実感、周囲からの受容感が高く、周囲との関係から生ずる劣等感も低い」等、良好な適応状態が示唆された。それ故、学生の意欲に応えるとともに、ソーシャルスキル向上も期待できる参加型授業は、不適応予防の具体方策として有効ではないかと考えられる。

②進級時ガイダンス充実;本研究結果から、1年生では高い「課題・目的の存在」の得点が、2、3年生になると大きく低下することが明らかになった。先行研究においても、2年生の適応状態の不安定さが指摘されている(Walters, 1961; 下山, 1995)。それ故、今後は、先輩教師による講話、魅力ある学校現場の授業実践紹介等を取り入れたガイダンス内容の充実が必要である。また、「課題・目的の存在」に関する意識が継続して保てるよう、年間複数回のガイダンス実施が必要ではないかと考えられる。

Table 1 ソーシャルスキルおよび適応感下位尺度得点の学年別・性別平均値と分散分析の結果

サンプル数 = 461	1年生		2年生		3年生		4年生		F値		
	男子 123名	女子 70名	男子 78名	女子 22名	男子 97名	女子 25名	男子 33名	女子 13名	学年	性	交互作用
ソーシャルスキル	57.03 (12.01)	56.11 (10.52)	57.06 (13.03)	55.68 (12.10)	56.80 (11.38)	62.84 (9.79)	63.00 (7.93)	61.54 (12.92)	4年生>1,2,3年生 3.71*	.16	2.00
居心地の良さの感覚	39.25 (9.45)	40.99 (8.11)	37.82 (9.67)	38.91 (8.59)	37.76 (10.42)	42.44 (8.55)	39.24 (9.56)	45.69 (8.50)	1.56	9.21** 女子>男子	1.11
課題・目的の存在	26.66 (4.61)	26.37 (4.26)	23.59 (5.15)	24.73 (5.22)	23.93 (5.60)	25.68 (6.64)	27.48 (5.47)	28.23 (5.29)	6.55** 1,4年生>2,3年生	1.80	.85
被信頼・受容感	16.64 (5.08)	16.86 (4.41)	16.12 (5.22)	17.09 (4.06)	16.68 (4.98)	17.40 (5.49)	19.09 (5.17)	19.46 (5.29)	2.88* 4年生>1,2,3年生	.88	.12
劣等感の無さ	20.63 (4.97)	20.34 (4.79)	19.37 (4.27)	19.27 (4.87)	20.16 (4.32)	20.60 (4.96)	22.24 (4.53)	20.46 (5.01)	1.74	.58	.49

() 内は標準偏差 * $p < .05$ ** $p < .01$